

研究課題名	患者腫瘍組織移植モデル (Patient-derived xenograft) を用いた脳腫瘍に対する創薬研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 教授 堀江 信貴
研究期間	実施許可日 ~ 2036年12月31日
対象者	2023年3月から2033年12月の間に、広島大学病院脳神経外科で脳腫瘍に対する治療を受けられる患者さん
意義・目的	<p>膠芽腫などの悪性脳腫瘍は予後不良な疾患であり、新規の脳腫瘍治療の開発が切望されています。従来、細胞株を用いた基礎研究では、薬剤の有効性を正確に評価することは困難です。本研究によって、患者さんの脳腫瘍組織の一部を用いて、患者腫瘍組織移植 (Patient-derived xenograft: PDX) モデルが樹立できれば、実際の腫瘍に近い状態で薬剤の有効性の評価が可能となり、脳腫瘍の新規治療開発に大きく貢献できると考えられます。</p>
方法	<p>脳腫瘍手術を行い、摘出した腫瘍検体を病理診断に提出しますが、その余剰検体の一部を採取し、腫瘍細胞を分離培養し、患者由来の腫瘍細胞 (Patient-derived cells: PDC) やスフェロイド (patient-derived spheroid: PDS)、オルガノイド (Patient-derived organoid: PDO) を樹立します。さらに、免疫不全マウスに移植し、PDX モデルを樹立します。</p> <p>また、カルテから以下の情報を収集し、PDC, PDS, PDO, PDX モデルの特徴と比較解析いたします。カルテから使用する内容は年齢、性別、身長、体重、症状、既往歴、内服歴、検体検査項目 (血液、髄液、尿など)、手術方法、手術内容、手術合併症、化学療法の内容、放射線治療の内容、治療中の合併症や副反応、病理診断、遺伝子解析結果、入院期間、MRI やCT などの画像検査、生存期間、無増悪生存期間、臨床転帰です。</p> <p>取得した試料や試料・情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。</p> <p>作成したモデルを使用して、腫瘍の特徴を解析したり、薬の効きやすさを評価したりします。</p>
共同研究機関	ありません
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 教授 堀江 信貴
個人情報の保護について	

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5227

広島大学病院脳神経外科 准教授 山崎 文之、医科診療医 大西 俊平